

2020年度 冬学期 都市工学輪講

公共トイレの面的配置を考える

～都市解析の理論と応用～

だれもが快適に利用できる公共トイレを整備していくことは、移動経路のバリアフリー化とあわせて、高齢者、障害者をはじめとするあらゆる人々が行動範囲を広げるために重要です(※)。ところが、市街地において公共トイレをどのくらい配置すればよいのか、空間的にどのように配置すればよいのか、十分な検討はなされておられません。

本輪講では、市街地における公共トイレの適切な面的配置について検討いたします。まず、公共トイレの現状に関する文献(※)を読みます。そのうえで、公共トイレの面的配置を検討する際に考慮すべき特性を明らかにします。続いて、具体的な地域を対象に公共トイレの配置状況を調査します。既存の都市解析の理論を論文等で学び、①現状の配置が望ましいかどうかを評価するとともに、②具体的な配置を検討します。

※国土交通省総合政策局安心生活政策課，2012，多様な利用者に配慮したトイレの整備方策に関する調査研究 報告書。

URL: https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000016.html

想定する参加者は、学部3年生から大学院生までです。まちづくり大学院の学生も歓迎いたします。地区の実態認識と評価，設計，都市圏の各演習等を経験し，数理的な基礎の必要性を実感した方にはオススメです。

毎週1回程度の頻度で、参加者は各回で扱う論文等を事前に読み，議論に参加することを必須といたします。

2020年度冬学期の輪講は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針に従い、オンラインで開講いたします。輪講に参加予定の方、参加するにあたって質問等ある方は、下記問合せ先までご連絡ください。

担当：住宅・都市解析研究室 薄井宏行 助教，樋野公宏 准教授
問い合わせ先：usui@ua.t.u-tokyo.ac.jp